

# 女子大生「これが理想の家」

女子大生らが将来住みたい家をイメージしてデザインに関わったモデルハウスの建設が、香芝市五位堂で進められている。開放的な吹き抜けのリビングや飾り窓など、若い女性の感性を生かした家になりそうだ。

香芝市が産学連携の一環で、市内の企業に大学の知識を活用するアイデアを募ったところ、工務店「垣本ハウジング」（垣本喜己社長）が「家のデザインがマンネリになりがちで、若い人の意見を取り入れた新しいデザインを考案したい」と相談。同市が2007年から包括協定を結んでいる大阪樟蔭女子大（大阪府東大阪市）を紹介した。

同大学児童学部2、3年生8人が参加。「ハタチの私が将来住みたい家」をイメージして「洋画に

## 吹き抜けや防音趣味室

出てくるようなカントリー風の外觀などのアイデアを出し合い、同社が2階建て延べ120平方メートルの家を企画した。

36歳の夫、34歳の妻、男女2人の子供の4人家族を想定。1階のリビング（17・3畳）は南向きで明るく、2階までの吹き抜け構造で開放的にし、料理中も家族と顔を合わせられるオープンキッチンを採用した。子供が泥んこになって帰ってきたら浴室に直行できるように、玄関の隣に洗面脱衣室と浴室を配置した。

趣味室（2・7畳）は防音加工し、気兼ねなくピアノが弾ける。2階の女の子部屋には大きめのクローゼットを備え付けるほか、夫婦の寝室には、朝日が差し込む東向きに飾り窓を付ける予定。

今月13日に上棟式を実施。8月



女子大生らの声を生かしてデザインした「ハタチの私が将来住みたい家」の完成予想図—垣本ハウジング提供

末に完成し、9月に公開見学会を開く。3年の香西千都さん（21）は「子供部屋のロフト部分など無理を言ったところも設計に反映された」と感激した様子。垣本社長は「学生らしい若い感性が光る家。出来上がりが楽しみ」と話した。